

《出演者プロフィール》

国指定重要無形民族文化財

伊勢大神楽講社 山本勘太夫社中 (いせだいかぐらこうしゃ やまもとかなだゆうしゃちゅう)

伊勢大神楽とは、獅子舞を舞いながら諸国を巡り、かつては伊勢神宮、現在では伊勢大神楽講社の神札を頒布してまわる神楽です。江戸時代、庶民の最高の娯楽は“お伊勢参り”でした。伊勢は天照大神が鎮座する地でありながら、土産物屋や遊郭がひしめきあい、そこには現代の厳かな姿のお伊勢参りとは全く違う、庶民による娯楽と信仰の世界が広がっていました。神宮の代参人でありながら、娯楽芸能の形を遺した放下芸や萬歳（まんざい）を今に伝える伊勢大神楽講社はその江戸期のお伊勢参りの姿を現代に遺す“歩く重要文化財”と表されます。

令和元年5月には大阪城にて行われた新天皇御即位記念の祝賀行事へ招聘。また同年6月には大韓民国で開催された世界的芸術祭“世界芸術ヴィエンナーレ2019”に日本代表として招聘。帰国直後には大阪府にて開催された主要国・新興国首脳会議G20にて開催国日本の芸能文化の一つとして招待されるなど、あらゆる国際的催事から招聘を受け参加した。近年は一年を掛け西日本の回漕を行いつつ、日本全国で公演活動を行うなど新たな時代に合わせた旅を続けている。



米谷流尺八大師範 米谷 大輔 (よねや だいすけ)

大阪府 出身

幼少の頃、母（梅若啄泰）の影響を受け民謡を始める。

小学5年～林喜雄師門下の山本佑昌師・佑佳師に尺八の手解きを受ける。

平成8年～上京し米谷威和男師・小杉真貴子師の内弟子となり民謡・尺八の習得に励む。

平成12年～名取を許され、「米谷大輔」となる。

平成16年～8年の内弟子修業を終了し、地元大阪へ戻る。

平成26年～米谷流尺八大師範を許される。

（現在）

NHK民謡テレビ番組・ラジオ放送 名曲アルバム・演歌歌手ステージ出演・レコーディング・民謡発表会、教室、他 活動中。



和太鼓 佐伯 篤宣 (さえき あつのぶ)

和太鼓との出会いは高校時代、友達との沖縄旅行の際にエイサーと出会い、地元（大阪）の太鼓チームに入る。

大学時代プロ和太鼓奏者、神奈川馬匠（かながわばしょう）氏に師事。神奈川氏のソロコンサートへの参加や、神奈川氏と共に香港マカオにて、日本とマカオの記念式典にて演奏。

2011年3月にスウェーデンにて、地元の和太鼓チームへの指導を行う。

東日本チャリティーコンサートを同地にて開催。

その後、4月より地元交野市にて小学校への指導、地元太鼓チームへの指導、またプロの演奏家とのイベント出演など、交野を拠点にソロとして活動を行う。

2021年「地元に100年続く郷土芸能を...」の思いのもと、チャンゴ奏者であり郷土芸能者のチェ・ジェチ ヨル氏と「サエキ囃子」を立ち上げ、7月虫送り祭を開催。コロナ禍において、祭りの重要性を再構築する。

地元交野市を和太鼓の町に、... 和太鼓を通して人と人とか繋がれる場を目指し現在、積極的に和太鼓の普及活動を行う。



津軽三味線 飯田 華那 (いいだ はな)

小学4年生生から和太鼓を始め、日本民謡藤本流大師範でもある祖母の影響で藤本流三味線を始める。

津軽三味線の音色の激しさに魅了され中学1年生の時に、

津軽三味線へ転向する。

現在、津軽三味線世界大会A級3連覇山中信人師に師事。

数々の全国大会にて優勝および上位入賞。

伝統文化の継承に尽力している祖母の精神の影響を受け継ぎ伝統芸能の道を進化させ続け、今後の活動と意欲に繋げている。



四條囃青年団 (しじょうなわてせいねんだん)

四條囃青年団は毎年9月に丸太神輿を担ぎ四條囃市内を練り歩く独自の祭りで地元へ活力を生み出し、何十年何百年と続くような祭りにしよう！との決意で『囃祭』を開催しております。今年は9月18日に第18回囃祭を開催する予定です。ですので宜しくお願い致します！



なわて子ども太鼓 (なわてこどもたいこ)

「子ども達相互の友好を深めると共に、将来四條市の文化活性に貢献してもらえるような和太鼓集団に育て上げたい」との目的で平成16年に結成されました。今年で結成18年目になります。令和元年には大阪府民生委員児童委員協議会連合会より評価され、「子どもさわやか賞」を受賞。後世にこの大切な日本の伝統文化を継承してもらえるよう努力・精進してまいります。

